資料２－①

がん検診に関する市民アンケート調査結果の概要

１　調査の目的

市民のがん検診の受診に関する実態調査を行い、青森市のがん検診受診率向上に向けた施策の展開に活用する。

２　調査方法

（１）調査対象

住民基本台帳から標本個体の無作為抽出（確率比例抽出）により抽出した４０歳以上の男性７５８人、２０歳以上の女性１，２４２人の計２，０００人を対象とした。

標本数は、男女比、年齢別に層化したうえで、市の平成２５年７月３１日現在の人口２９９，１２９人の構成比により割り当て、標本数を定めた。

（２）調査期間

平成２５年８月１５日～８月３１日

（３）調査方法

調査票の郵送配付・郵送回収

（４）回収状況

男性２５８人、女性４７１人の計７２９人から回収

回収率３６．５％

（５）アンケート内容　（全５０項目）

・回答者属性について・・・・・・・・・・５項目
・がんやがん検診に対する関心について・９項目
・胃がん検診について・・・・・・・・・・６項目
・大腸がん検診について・・・・・・・・・６項目
・肺がん検診及び肺がんについて・・・・９項目
・乳がん検診について・・・・・・・・・・６項目
・子宮がん検診について・・・・・・・・・６項目
・今後のがん検診について・・・・・・・・３項目

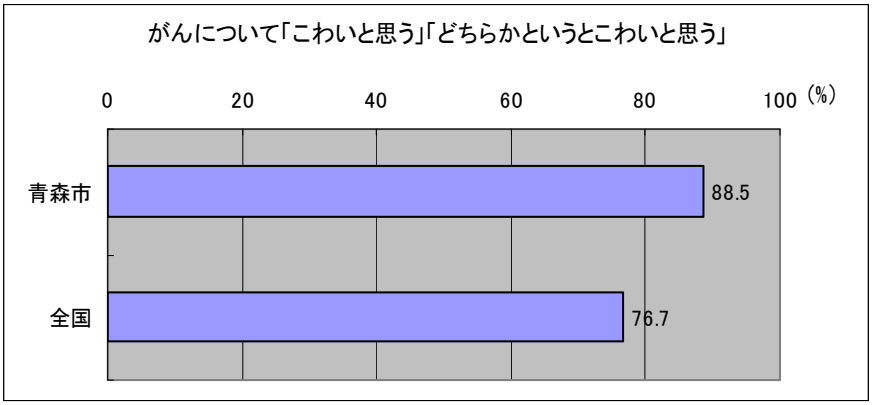
３　調査結果からみた現状

国等において、類似の調査結果が公表されている項目について比較を行った。

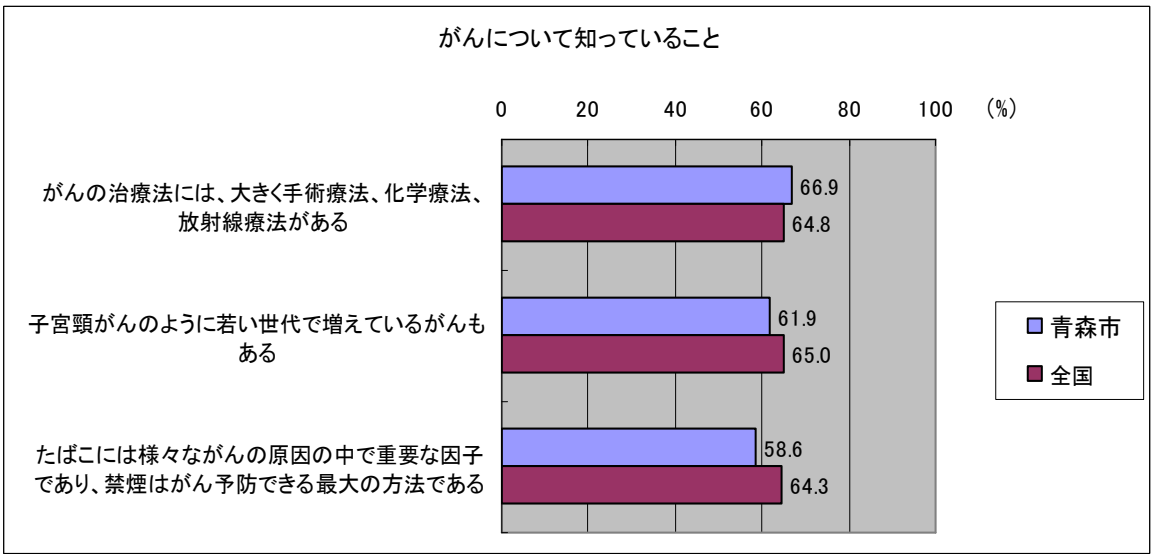
（１） がんやがん検診に対する関心について

内閣府『がん対策に関する世論調査』平成 25 年 1 月調査結果(以下「世論調査」という。)との比較

① がんについて、「こわいと思う」「どちらかというとこわいと思う」と回答した市民は 88.5%で、世論調査 76.7%より 12 ポイント高かった。その理由として、「がんで死に至る場合がある」「がんの治療費が高額になる場合があるから」「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから」の順に高かった。



② がんについて知っていることとして、複数回答で高かったものは、「がんの治療法には、大きく手術療法、化学療法、放射線治療がある」が 66.9%で、世論調査 64.8%より 2.1 ポイント高く、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんもある」が 61.9%で、世論調査 65.0%より 3.1 ポイント低く、「たばこは、さまざまながんの原因の中でも重要な因子であり、禁煙は、がん予防できる最大の方法である」が 58.6%で、世論調査 64.3%より 5.7 ポイント低かった。



③ がんは、自分も含めて誰でもなる可能性があると思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民は92%。
④ がん検診は、がんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民は95%。
⑤ がん検診について、家族や職場、地域などで話題になることはあるかについて、「よくある」「たまにある」と回答した市民は77.2%。
⑥ がん検診について、家族や職場、地域などで受けることを勧めたり、勧められたりすることはあるかについて、「ほとんどない」と回答したのは、男性では30.7%。特に40代男性では45.7%に上る。女性では24.3%で、年代別では20代が40.5%であるものの、30代～60代までは、ほぼ全体と同じ割合である。
⑦ がん検診についての考えでは、複数回答で最も多かったのは、「自分の健康は自分で守るものなので受けることが必要であると思う」(78.9%)、「家族や仲間のために元気でいることが大切なので、受けることが必要であると思う」(62.3%) が最も多かった。
⑧ これまでがん検診を受けたことがあるかについて、「ない」と回答したのは、男性は全体の20%、女性は12%だった。

（２） 各種がん検診について

① 昨年度の各種がん検診の受診状況

調査年の違いがあるが、東京都や全国と比較して、「昨年度がん検診を受診した」と回答した方の割合が高かった。

＜青森市＞

胃 が ん （n＝621）	大腸がん （n＝623）	肺 が ん （n＝624）	乳 が ん （n＝431）	子宮がん （n＝466）
48.3%	47.7%	53.0%	43.4%	43.6%

※nには無回答者を含まない

＜東京都＞（「平成20年度東京都がん検診実態調査」結果より）

胃 が ん （n＝1,981）	大腸がん （n＝1,981）	肺 が ん （n＝1,981）	乳 が ん （n＝1,114）	子宮がん （n＝1,514）
35.6%	35.7%	39.6%	30.9%	34.8%

※nには無回答者を含む

＜全国＞（「平成22年国民生活基礎調査の概況」より）

胃 が ん	大腸がん	肺 が ん	乳 が ん	子宮がん
男性34.3% 女性26.3%	男性27.4% 女性22.6%	男性24.9% 女性21.2%	31.4%	32.0%

② 昨年度にがん検診を受けた形（乳がん・子宮がん検診については、平成23年度、平成24年度内の受診）

昨年度に受けたがん検診の形は、東京都と比較し、「職場検診」の割合が高く、「市の検診」（乳がん検診を除く）、「個人」、「診療の一貫」が低かった。

＜青森市＞

	市の検診	職場検診	個人	診療の一環（通院中または入院中）	その他
胃 が ん	23.7%	57.6%	13.6%	4.4%	0.7%
大腸がん	30.0%	54.3%	10.6%	3.8%	1.4%
肺 が ん	24.2%	66.7%	4.9%	3.4%	0.9%
乳 が ん	41.2%	36.8%	17.6%	3.8%	0.5%
子宮がん	28.6%	34.9%	19.8%	12.0%	4.7%

＜東京都＞（「平成20年度東京都がん検診実態調査」結果より）

	住民検診	職場検診	個人	診療の一環（通院中または入院中）	その他
胃 が ん	25.1%	42.0%	15.8%	13.6%	1.4%
大腸がん	31.6%	37.2%	14.9%	12.6%	1.5%
肺 が ん	29.4%	47.2%	9.2%	7.9%	1.2%
乳 が ん	39.3%	31.4%	17.5%	6.8%	2.1%
子宮がん	33.3%	26.8%	19.7%	18.7%	2.7%

③ 受診の理由

受診の理由は、「自身の健康管理のため」や「がんの早期発見のため」が多かった。

＜青森市＞

	１位	２位	３位
胃 が ん	自身の健康管理のため	胃がんの早期発見のため	職場検診の内容だった
大腸がん	自身の健康管理のため	大腸がんの早期発見のため	受診することでの安心感
肺 が ん	自身の健康管理のため	職場検診の内容だった	肺がん検診の早期発見のため
乳 が ん	乳がんの早期発見のため	自身の健康管理のため	受診することでの安心感
子宮がん	自身の健康管理のため	子宮がんの早期発見のため	受診することでの安心感

④ 受診しなかった理由

受診しなかった理由については、「症状がないので受ける必要性を感じない」や「たまたま受けていない」が多く、東京都の調査は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」や「忙しいから」が多かった。

＜青森市＞

	1位	2位	3位
胃 が ん	症状がないので受ける必要性を感じない	たまたま受けていない	面倒
大腸がん	症状がないので受ける必要性を感じない	面倒	たまたま受けていない
肺 が ん	症状がないので受ける必要性を感じない	たまたま受けていない	心配な時には医療機関を受診
乳 が ん	たまたま受けていない	症状がないので受ける必要性を感じない	面倒
子宮がん	症状がないので受ける必要性を感じない	たまたま受けていない	面倒

＜東京都＞（「平成 20 年度東京都がん検診実態調査」結果より）

	1位	2位	3位
胃 が ん	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	忙しいから	面倒くさかったから
大腸がん	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	忙しいから	面倒くさかったから
肺 が ん	忙しいから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	面倒くさかったから
乳 が ん	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	忙しいから	面倒くさかったから
子宮がん	忙しいから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	面倒くさかったから

⑤ 職場検診の中の受診機会（国民健康保険以外）

職場検診の中で、がん検診を受診する機会がない方は、胃がんが30.9%、大腸がんが34.1%、肺がんが27.4%、乳がんが53.5%、子宮がんが53.1%であった。

	本人のみ	本人及び被扶養者	ない	※ない場合、市の検診を受診できること	
				知っている	知らなかった
胃 が ん	37.2%	31.9%	30.9%	61.4%	38.6%
大腸がん	37.5%	28.4%	34.1%	62.8%	32.7%
肺 が ん	42.8%	29.8%	27.4%	61.0%	39.0%
乳 が ん	27.6%	18.9%	53.5%	76.4%	23.6%
子宮がん	28.6%	18.3%	53.1%	76.6%	23.4%

⑥ がん検診の受診者を増やすために必要だと思うこと（複数回答、約半数の人が必要だと回答した内容）

自己負担が安くなればよい（56.8%）
無料になればよい（56.1%）
土日等休日に受けられる日が増えればよい（52.5%）
都合に合わせて自由に受けられるとよい（49.4%）
乳がんや子宮がんの検診は、女性の医師や検査技師が担当すればよい（46.4%）

⑦ 保険者区分別がん検診受診状況（有効回答数によるクロス集計）

がん検診を受診したと回答した方は、国民健康保険加入者がその他の医療保険加入者に比べて低かった。

	胃がん（n＝618）	大腸がん（n＝619）	肺がん（n＝620）	乳がん（n＝429）	子宮がん（n＝464）
国　保	35.7%	37.5%	40.2%	27.4%	29.9%
その他	57.7%	55.5%	63.2%	53.2%	51.4%

⑧ 本人・被扶養者別がん検診受診状況（有効回答数によるクロス集計）

がん検診を受診したと回答した方は、健康保険の被扶養者が本人より低かった。

	胃がん（n＝348）	大腸がん（n＝348）	肺がん（n＝349）	乳がん（n＝259）	子宮がん（n＝284）
本　　人	62.1%	57.6%	70.9%	53.8%	56.8%
被扶養者	48.6%	50.5%	45.7%	53.4%	45.0%

４　アンケート調査からみた課題

（１）９割を超える市民が、「がんは、自分も含めて誰でもなる可能性があると思う」、「がん検診は、がんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思う」と回答しており、８割の市民は、「自分の健康は自分で守るものなので、がん検診を受けることが必要であると思う」と回答しているが、実際のがん検診の受診率は、５割程度に留まっており、意識と実際の受診行動に差が見られる。

（２）受診に結びついていない理由では、ほとんどが「症状がないので受ける必要性感じない」「たまたま受けていない」であり、症状がないからこそ受けることが必要であるという「がん」の特性や、受けることを思い出すような呼びかけ等（誕生月にはがん検診等）、受診を呼びかけるメッセージに工夫をすることが必要である。

（３）被扶養者も含め、職場検診が受けられる方のうち、胃がん・大腸がん・肺がん検診の受診機会がないと回答した方は全体の約３割で、その方々の約３人に１人は、市の検診を受診できることを知らなかったと回答している。また、同じく、女性では、職場検診の中で、乳がん･子宮がん検診の受診機会がないと回答した方は、全体の約５割で、その方々の約４人に１人は、市の検診を利用できることを知らなかったと回答している。このことから、本人・被扶養者を含め、職場検診の中でがん検診を受けることができない方には、市の検診が利用できることや利用方法等を周知していくことが必要であり、受診率向上に向けては、職域との連携が重要となる。

（４）がん検診の受診については、国民健康保険加入者がその他の医療保険加入者に比べて低いことから、国民健康保険加入者への働きかけを強化することが必要である。

（５）市民からの意見としては、経費負担や土日等の休日に受けられる日の増加、乳がんや子宮がん検診における女性の医師や検査技師の対応等を求める声があり、関係機関と話し合うことが必要である。

（６）受診率向上に向けては、行政からの周知啓発のみならず、がん検診を受けることを勧めたり、勧められたりするような環境を地域や職域の中でつくっていくことが必要である。